

ナイフ型石器・台形石器

ナイフとしてはもちろん、槍の先にも付けられました。

※黒曜石製



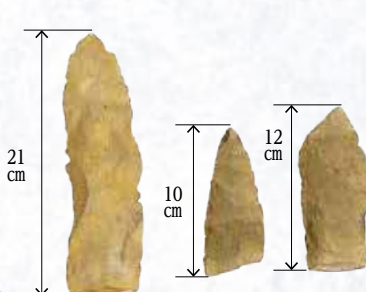
縦長剥片

※「槍」「ナイフ」などの名称は、用途ではなく形状で分類されたもの。名称≠用途ではありません。

大規模な石槍製作場があった多久では、豊富な石材を生かしてたくさんのお石器が作られました。

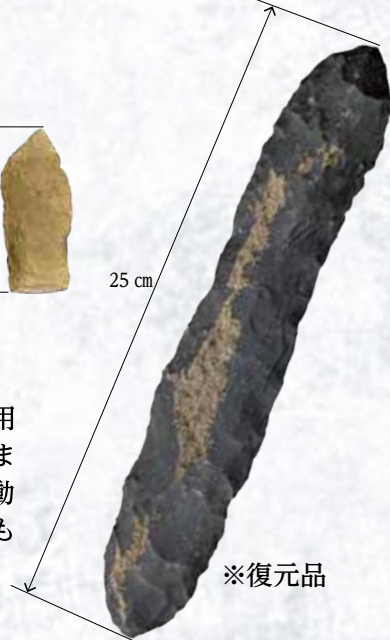
サヌカイト製の石器

ぞくぞく発掘!



尖頭器・石槍

大きなものは祭祀用の可能性も考えられます。槍の先のほか、動物の皮はぎなどにも使われました。



※復元品



打製石器



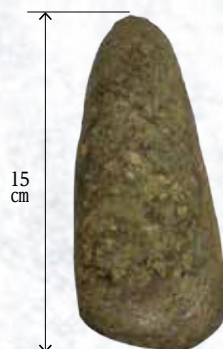
石鏃 (矢の先につける矢じり)

※黒曜石製

こぼれ話



縄文時代に入ると人々は定住生活を始め、石器製作の技法が向上。しかし、石器原産地から遠くに住む人々は移動しながら石材を得られなくなったので、石材が豊富な多久は、鹿児島など遠方に「未製品」と呼ばれる完成間近の石器を搬出していました。そのため、多久では完成品のほか未製品も多数出土します。



磨製石斧

斧のほか、鍬としても使われました。

※蛇紋岩

こんな石器が作れちゃう! /



気分は古代にタイムトラベル♪

今でもサヌカイトが豊富に採集できる多久市。これまで市では、公益財団法人孔子の里が開く「たく市民大学 ゆい工房」で、石のかけらを使ってペーパーナイフなどを作る体験教室を行ってきました。「夏休み子ども企画」と題して実施していることもあり、多くの子どもたちで大にぎわい!自由研究にもぴったりだと好評です。

令和7年に
国史跡への指定を
めざしています

日本にはサヌカイト原産地遺跡として国が史跡指定しているところはありません。多久市は初の指定をめざして、現在報告書をまとめています。

多久石器原産地遺跡群は、石器文化の研究を進展させるためにも重要です。国指定史跡とし、郷土の誇りを未来まで残しましょう。

参考文献：岡村道雄著「歴史発掘① 石器の盛衰」1998年、株式会社講談社 / 福岡博監修「図説 佐賀・小城・多久の歴史」2009年、株式会社郷土出版社